

編集後記

『ヴィクトリア朝文化研究』第16号をお送りします。

今号には、ここ数年で最も多い7本の論文の投稿がありました。単に数が増えたばかりでなく、現在のヴィクトリア朝文化研究の勢いも実感させる多様な切り口の投稿論文のなかから、編集委員による厳正な審査の結果、2編を掲載します。合議の結果、そのうちの1編、Neil Addison氏の論文が佳作論文に選ばれました。残念ながら不掲載となった論文も、それぞれ魅力と可能性を秘めたものでした。ぜひ再度の投稿をお考えください。また、昨年の大会の特別講演とシンポジウム「南方熊楠から見たヴィクトリア朝」の内容を、改めて論文としてご投稿いただき、査読を経たうえで掲載しています。投稿論文と併せ、充実した7編の論文が巻頭を飾ることを喜ばしく思います。

田中裕介前編集長が企画されたエッセイ特集も、良き伝統として受け継いでいます。今回も、学会内外の優れた研究者の方々に、ヴィクトリア朝文化研究の視野を広げるような読み応えのあるエッセイをお寄せいただきました。書評欄においては、斯界の泰斗から気鋭の若手まで、最適の評者によるレビューを掲載することができました。ヴィクトリア朝文化に関わる研究書は陸続と刊行され、汗牛充棟の観を呈していますが、本誌の書評欄がその見取り図の一端なりとも提示できていれば幸いです。素晴らしい原稿をご執筆いただいた皆様に、改めて感謝いたします。

最後になりますが、ご多忙の中、本誌の刊行のために、編集委員同様にご尽力いただいた川端康雄会長と山口恵里子副会長、そして常に的確な準備とフォローで編集委員の仕事を助けてくださった学会事務局の方々に、篤くお礼申し上げます。

(大久保 譲)